
II 看護学部

1. 看護学科

日本の医療は、少子超高齢社会の到来とともに、病院中心の「治す医療」から、住み慣れた地域や在宅で「支える医療」へとシフトしている。疾患や障害を持ちながらもその人らしく自立・自律して地域で生活できるための支援者として看護職には大きな期待が寄せられ、「支える医療」においては、人々の生き方や価値観を尊重し一人ひとりの特性や環境に応じた多様な支援が求められる。疾患や障害そのものだけにとらわれず、食事・睡眠・排泄などの日々の療養生活を安全に、快適に過ごすための看護ケアをあらゆる角度から考え、多様な職種とも協働しながら提供していく必要がある。

本学部の研究活動においては、このような社会情勢の動向や超高齢社会に伴う看護の役割拡大を踏まえ、ニーズの多様性に対応できる質の高い実践力を培う看護教育、飛躍的に発展している医療・介護ロボットやICTなどの活用、工学部の教員との連携による工学的な視点を取り入れた看護学、地域住民や自治体とのネットワークに基づく地域課題を志向した研究活動などに取り組んでいる。

(1) 基礎看護学

岡本 恵里（教授 2017.4-）
川崎 久子（准教授 2019.4-）
三善 郁代（准教授 2019.4-）
林 静子（准教授 2019.4-）
浦井 珠恵（講師 2019.4-）
福森 絢子（講師 2019.4-）
山本麻理奈（講師 2019.4-）
鷺塚 寛子（講師 2019.4-）
岩崎 涼子（助教 2019.4-）
矢野 正晃（助教 2019.4-）
細田恵莉奈（助手 2019.4-）
堀田 美沙（助手 2019.4-）

岡本は、看護技術教育を研究分野とし、米国との連携によるICTを活用した看護倫理教育プログラムやユマニチュードを用いたケア技術教育プログラムの開発と教育効果の検証等に取り組んでいる。

川崎は、看護管理学を研究分野とし、防水シーツの消費性能を基盤にした臥床患者用寢床環境の定量化に関する研究等に取り組んでいる。

三善は、感染予防教育等を研究分野とし、中小規模病院を対象とした感染予防教育・ノックリティカル器材の衛生管理に関する研究等に取り組んでいる。

林は、看護技術等を研究分野とし、VR学習システムを活用したシミュレーション教育の研究等に取り組んでいる。

浦井は、褥瘡再発予防に向けた褥瘡の創閉鎖部アセスメント指標の探索等に取り組んで

いる。

福森は、看護師の過剰適応尺度の開発と看護師が過剰適応に陥る要因に関する研究等に取り組んでいる。

山本は、神経難病患者の在宅療養への移行に関わる看護師の支援の在り方等について研究している。

鷲塚は、高齢者の転倒予防を目指した足趾力測定器の開発や、足趾力の向上を目指したトレーニングプログラムの開発等に取り組んでいる。

岩崎は、看護系大学における認知症高齢者の看護に関する倫理教育の実態把握と教育内容の検討等に取り組んでいる。

矢野は、看護実践に潜む看護の実践知の研究や、看護ケアにおける患者の尊厳に関するリフレクション教材の開発に取り組んでいる。

細田は、ユマニチュードのケア技法を取り入れた体位変換技術教育プログラムの検討等に取り組んでいる。

堀田は、認知症高齢者のひとり歩きに関する看護師及び家族介護者の観察の視点と判断のプロセス等の研究に取り組んでいる。

(2) 成人看護学（急性期）

榎子 嘉美（教授 2019.4-）

城戸口親史（准教授 2020.4-）

寺内 英真（講師 2019.4-）

二本柳 圭（講師 2019.4-）

竹口 将志（助教 2019.4-）

榎子は、周手術期等の臨床看護学を研究分野とし、手術侵襲の生体反応と回復過程における学生用教材の開発等に取り組んでいる。

城戸口は、感染看護学等を研究分野とし、針刺し事故やHIV感染、一次救命処置プロバイダー資格取得に関する研究等に取り組んでいる。

寺内は、せん妄患者へのモジュール型予防的看護ケアプログラムの開発や、せん妄ケアの実施及び組み合わせによる効果検証等に取り組んでいる。

二本柳は、急性期人工呼吸器ケアの自立支援学習教材プログラムの開発や、呼吸とストレスに関連した人工呼吸器ケアの研究等に取り組んでいる。

竹口は、術前外来導入に向けた手術室看護師のための術前看護実践支援ツール開発及び有用性評価等に取り組んでいる。

(3) 成人看護学（慢性期）

片田 裕子（教授 2019.4-）

比嘉 肖江（准教授 2019.4-）

若林理恵子（講師 2019.4-）

濱野 初恵（助教 2019.4-）

福村 寛子（助教 2019.4-）

片田は、慢性期看護学等を研究分野とし、臨床看護学における主体的学習での教育効果

の検証や、慢性疾患を有する対象者のストレスマネジメント研究、慢性疾患を有する対象者への看護実践プログラム開発と効果の検証等に取り組んでいる。

比嘉は、がん看護等を研究分野とし、がん相談支援センター相談員が抱える困難感と課題や医療者のビリーブメントケア等の研究に取り組んでいる。

若林は、終末期や慢性疾患、多職種連携等をキーワードに、終末期意思決定支援プログラムの開発に向けた基礎的研究を行っている。

濱野は、血液透析患者のフレイル予防や糖尿病足病変予防に向けた多職種連携による包括的アプローチに関する研究等に取り組んでいる。

福村は、Expressive Writing Interventionを補完療法として活用したがんサバイバーへの看護支援プログラムの開発と検証等に取り組んでいる。

(4) 老年看護学

竹内登美子（教授 2017.4-）

木谷 尚美（准教授 2020.4-）

青柳 寿弥（講師 2017.4-）

伊藤 裕佳（講師 2019.4-）

川口 寛介（助教 2020.4-）

米山 真理（助教 2019.4-）

竹内は、高齢者看護等を研究分野とし、認知症の人と家族の映像を導入した専門職連携教育プログラムの開発と教育効果の検証や、特発性基底核石灰化症の診療、病態解明、創薬のためのエビデンス創出研究等に取り組んでいる。

木谷は、初期認知症の人が、老年期の発達課題である「人生の統合性」を獲得するための看護支援プログラムの構築と検証等に取り組んでいる。

青柳は、介護初期における家族介護者向けの認知症ケア教材の開発や、看護職・介護職向けの包括的コミュニケーション技法の教育プログラム構築等に取り組んでいる。

伊藤は、介護施設の看護管理者用ケアスタッフキャリア支援プログラムの開発や、介護施設で働く看護職の成長過程の明確化等に取り組んでいる。

川口は、前立腺がん患者のQOL向上を目指したサバイバーシップ支援や、排尿ケア等の研究に取り組んでいる。

米山は、在宅で暮らすレビー小体型認知症の人を対象とした認定看護師の看護実践とケアモデルの構築等に取り組んでいる。

(5) 母性看護学

松井 弘美（教授 2019.4-）

工藤 里香（准教授 2019.4-）

小林絵里子（講師 2019.4-）

村田美代子（講師 2019.4-）

岡田 麻代（助教 2019.4-）

北島 友香（助教 2019.4-）

三加るり子（助教 2019.4-）

西村 香織（助教 2019.4-）

松井は、助産学や母性・女性看護学を研究分野とし、助産師基礎教育における分娩期の異常の臨床判断力を育成する教育方法の開発と効果検証や、助産師が実践するいのちの教育プログラムの開発等に取り組んでいる。

工藤は、母性・女性看護学や生涯発達看護学を研究分野とし、子宮頸がん検診受診率向上を目指した看護職対象のスマアテイカー養成プログラムの開発等に取り組んでいる。

小林は、新生児蘇生法（NCPR）実施における看護師の視認機能の特徴や、混合病棟における多職種共同で行う母乳育児支援の特徴に関する研究等に取り組んでいる。

村田は、乳児の泣きや乳児の抱きの解析を行い、乳児のなだめやすさの基礎的研究等に取り組んでいる。

岡田は、父親自助グループとともに行う父親学級プログラムの開発や、妊娠期における父親の育児教育のシステマティックレビュー等に取り組んでいる。

北島は、産後の排尿アセスメント指標の開発や、助産師を対象とした超音波教育プログラムの構築等に取り組んでいる。

三加は、産後2週間健診における40歳以上の高年初産婦に特化した助産師の支援のあり方を検討し、具体的な支援指標の作成等に取り組んでいる。

西村は、日本で妊娠・出産・育児を行う外国人妊産婦に対するコミュニティと看護職を対象とした支援プログラムの開発等に取り組んでいる。

(6) 小児看護学

高木 園美（講師 2019.4-）

寺井 孝弘（講師 2019.4-）

若瀬 淳子（講師 2019.4-）

松本 美子（助教 2019.4-）

高木は、重症心身障害児や医療的ケア児に対する早期療育に関する研究や、小児分野におけるユマニチュードの考えに基づいたモデル人形開発等に取り組んでいる。

寺井は、養育者の心理傾向に着目した児童虐待へのポピュレーションアプローチに関する研究や、妊娠期からの児童虐待予防に関する研究等に取り組んでいる。

若瀬は、小児分野におけるユマニチュードの考えに基づいたモデル人形開発や、学生の問主観性を育むシミュレーション教育プログラムの開発の研究等に取り組んでいる。

松本は、食物アレルギーをもつ子どもへの疾患教育に関する研究や、小児分野におけるユマニチュードの考えに基づいたモデル人形開発等に取り組んでいる。

(7) 精神看護学

田中いずみ（教授 2019.4-）

杉山由香里（講師 2019.4-）

遠田 大輔（助教 2019.4-）

浜多美奈子（助教 2019.4-）

田中は、看護教員における職業キャリア成熟の構造の分析と職業キャリア成熟尺度の開発や、精神看護学臨地実習における学生の学びと成長に関する研究等に取り組んでいる。

杉山は、看護師の援助的コミュニケーションスキルに関する教育プログラムの開発や、看護師の援助的態度に関する研究等に取り組んでいる。

遠田は、一般病院から精神科病院に転院する認知症者の臨床的特徴に関する調査や、認知症者の家族介護者における介護負担感に関する研究等に取り組んでいる。

浜多は、看護系大学生の職業キャリア成熟と看護学生としてのアイデンティティに関する研究等に取り組んでいる。

(8) 在宅看護学

河野由美子（准教授 2019.4-）

山崎 智可（講師 2019.4-）

北林 正子（助教 2019.4-）

河野は、認知症グループホームの介護職における虐待予防に関する研究や、富山県の訪問看護の充実に向けた現状と課題、医療的ケア児の発達に対する訪問看護師の指導等について研究している。

山崎は、在宅における精神障害者・家族への支援に関する研究や、障害者を対象とした農福連携に関する研究等に取り組んでいる。

北林は、退院支援の充実を目指した急性期病院からの在宅訪問に関する研究や、富山県の訪問看護の現状と課題および連携に関する研究等に取り組んでいる。

(9) 地域看護学

越田美穂子（教授 2018.4-）

佐伯 和子（教授 2020.9-）

堀井 聡子（准教授 2020.6-）

朝倉 理映（講師 2019.4-）

渋谷 昭子（講師 2019.4-）

池田 衣澄（助手 2019.4-）

越田は、保健師の人材育成プログラム開発と効果検証や、保健師のネットワーク形成技術開発と効果検証、ユマニチュードを活用した地域における認知症予防とその効果検証等に取り組んでいる。

佐伯は、保健師のキャリア開発を目的にキャリア測定尺度の開発、基礎教育及び現任教育のアクションリサーチ、また、地域看護アセスメントツールの開発、高齢社会における地域づくり研究に取り組んでいる。

堀井は、保健師等、地域保健医療人材のための地域包括ケアシステム構築方法論の確立とガイドライン開発及び高齢化社会を迎えるアジア・アフリカ諸国における保健医療人材育成の制度構築とその評価に取り組んでいる。

渋谷は、薬物治療におけるテキストマイニングを用いた感情分析による医療安全に関する研究や、医療過誤・インシデントの原因となる医療者の価値観を体系化する分析手法の確立等に取り組んでいる。

池田は、子どものメンタルヘルスにおける養護教諭の役割・専門性や、富山県における大学生のメンタルヘルスの季節性変化等の研究に取り組んでいる。